外国語活動・外国語科

子どもが「学びをつなぐ」外国語活動・外国語科学習

山口　耕　　荒川　ひかり

昨年度までの研究の概要

外国語科研究部では、「話し手」と「聞き手」が互いに相手意識をもつことを大切にしている。そして、外国語活動・外国語科の特質に応じた学びの本質とは何か、思いや考えの共有につながる相手意識とは何かを探る研究を進めてきた。昨年度は、子どもがこれまでの学びを生かすための手立てと仲間と共に学びをつなぐ言語活動の在り方の２点について研究を行った。そのなかで以下の姿が見えてきた。

○　教師と子どものやり取りを視聴させ、話の内容を推測しながら聞かせることで、既習の語句や表現を生かして、伝える順番を整理しながら会話をする姿

○　仲間の反応を確認しながらやり取りをさせることで、仲間の表現のよさを生かし、自分の表現を高める姿

これまでの研究から、子どもが単元ゴールにおいて、相手に配慮しながら、自信をもって英語で伝え合うためには、既習事項を生かし、仲間と何とか英語でコミュニケーションを図ろうとする経験の積み重ねが重要であることが分かってきた。また、これまでに学習してきた表現を生かしながら、相手の話を聞いたり伝えようとしたりする姿や、仲間とのコミュニケーションのなかで互いのよさを生かし、表現を高め合おうとする姿をめざすことで、相手意識の醸成が図れることも分かってきた。しかし、次の２点については継続して研究する必要がある。

○　目的意識や相手意識をもって仲間とコミュニケーションを図るなかで、表現を高めることができるような言語活動の設定

○　言語活動のなかで、相手にうまく伝えられなかったことを仲間と共有し、既習の語句や表現と結び付けて、表現を再構築できるような手立て

そこで、今年度は、これまでに研究を進めてきた、既習事項を生かしながら新しい表現に慣れ親しむための手立てを取り入れ、仲間と共に学びをつなぐ言語活動の在り方を研究の視点とし、検証を行うこととした。

研究内容

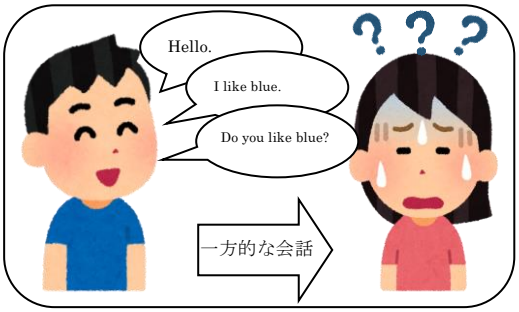
1　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方
⑴　仲間と共に学びをつなぐ言語活動の在り方

研究内容の基本的な考え方

1　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方

⑴　仲間と共に学びをつなぐ言語活動の在り方

これまでの研究から、子どもが自分の思いや考えを伝え合いたいと思う単元構成を行い、仲間と共に表現を高めることのできる言語活動を設定することで、明確な目的意識をもって活動できることが分かってきた。しかし、言語活動の設定の仕方によっては、与えられた英語をただ発話するだけの一方的な表現にとどまってしまう子どもも見られた【図１】。



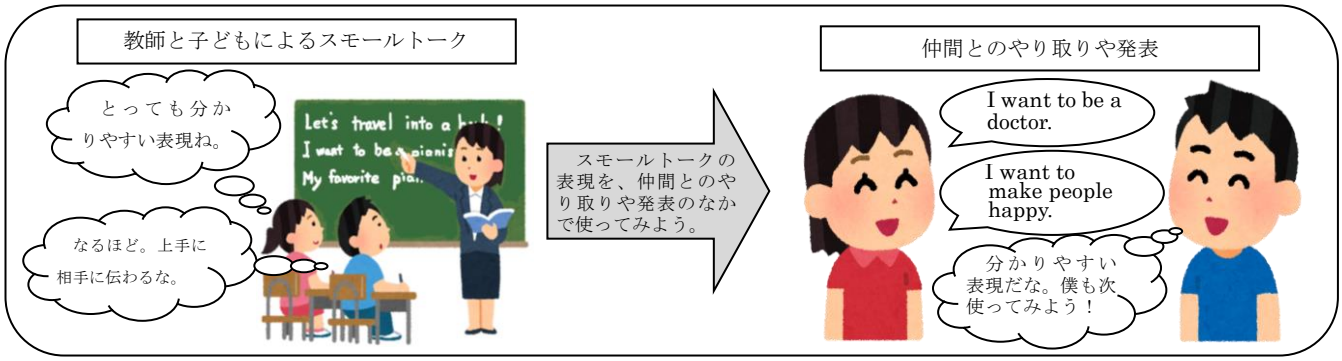
【図１　相手意識の低い一方的な表現】

外国語活動では、子どもが表現に慣れ親しみながら、言語活動を行うことで、学んだ英語から仲間へ伝えたい表現を選択し、自分の思いや考えを伝え合おうとする姿をめざしている。一方、外国語科学習では、言語活動をとおして、仲間の考えと比べたり、既習表現に新出表現を取り入れたりしながら自分の思いや考えを伝え合う姿をめざしている。外国語活動・外国語科学習においては、相手の反応を意識しながら、自分の思いや考えを、より分かりやすく伝えられるようなコミュニケーションを図るなかで、表現を高めることができる言語活動を毎時間設定していく必要がある【図２】。

また、外国語科学習においては、教師と子どもによるスモールトークを設定し、自分や仲間のやり取りや発表に必要な表現に気付かせることで、言語活動に生かすことができるようになると考える【図３】。

子どもの発達の段階に応じて、図２、図３のような言語活動を設定することで、互いの表現のよさを認め合い、取り入れながら表現を高め、相手に配慮しながら自信をもって英語で伝え合うことができるようになると考える。そこで、今年度も、単元ゴールに向けて、仲間と共に学びをつなぐ言語活動の在り方を究明する。

【図２　相手の反応を意識しながら、思いや考えを伝えられるようなコミュニケーション】



【図３　スモールトークを生かした言語活動】

研究の実際

1　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方

(1)　仲間と共に学びをつなぐ言語活動の在り方

単元をとおして、互いの表現のよさを認め合い、そのよさを取り入れながら表現を高め、相手に配慮しながら自信をもって英語で伝え合うことができる子どもの育成をめざすことにした。そのために、相手の反応を意識しながら、コミュニケーションを図るなかで、表現を高めることができるような言語活動を毎時間設定し、子どもが表現の高まりを実感できるようにした。

第３学年　７月　I like blue. すきなものをつたえよう

【手立て】

○　教師と子どものやり取りから気付いたことを、これまでのやり取りと比べさせることで、上手になってきた表現や反応を共有し、達成感を味わうようにした。

○　仲間とのやり取りの途中で気付いた、会話が楽しくなる表現や反応を全体で共有することで、仲間と協働することのよさに気付かせた。

○　ふりかえりにおいて、ゴールイメージへの達成感や単元終末に対する意欲的な発言も全体で共有することで、今後のコミュニケーション活動や表現の高まりに期待をもたせた。

T : Hello.
T : Can I go first?
C : Sure.
T : Do you like blue?
C : Yes, I do. …
反応
T : It's your turn.
C : O.K.
C : Do you like blue?
T : Yes, I do. …
反応
T : Thank you. Nice talking to you.
C : Nice talking to you too. See you.

【教師と子どものやり取りの例】

【現れていた子どもの姿】

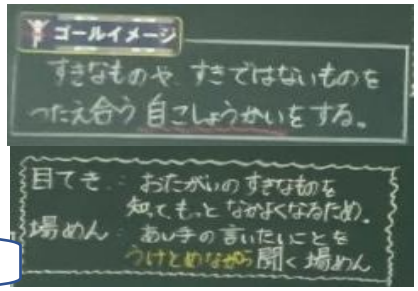
○　**めあての設定場面**

・　ゴールイメージや目的、場面、状況を掲示することで「もっと仲よくなるために自己紹介をしたい。」という思いをもつことができた（写真２）。

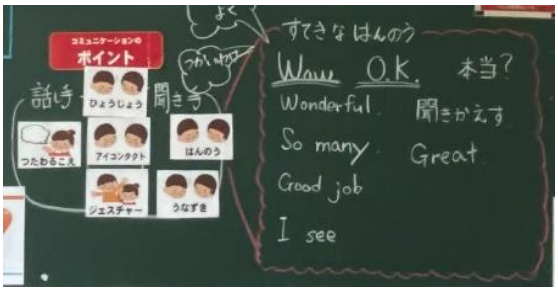
○　**反応の仕方を確認する場面**

・　話し手が気持ちよく話すことができるような反応の仕方を考えて、素敵な反応を全体で確認し、やり取りに生かす姿が見られた（写真１及び写真３）。

【写真１　やり取りの様子】



【写真２　板書】



【写真３　板書】

○　**ふりかえりの場面**

・　「相手とアイコンタクトをしながらやり取りができていた。」、「相手に分かりやすいように、ゆっくりと話すことができていた。」、「話し手が話しやすくなるような反応ができていた。」等の、仲間のよいところを学習プリントに記述する姿が見られた。

友だちと会話するとき友だちがまよっていたので
おしえてあげたらよろこんでいました。
友だちがいいはんのうをしていたので
わたしもしてみたいと思いました。
友だちのことがよく知れてうれしかった。

【子どものふりかえりの記述】

【考察】

やり取りのなかで、聞き手は、相手が言い淀んでも、受け入れ、待つ姿勢を示すことや、「You like ○○?」と相手の言いたいことを察して反応をする姿をめざすことが大切である。言語活動のなかで、互いの英語を指摘し合い、高めるようになっていくためにも、子ども同士の信頼関係は重要である。

第６学年　10 月　I want to be a vet. 将来の夢

【手立て】

○　既習表現を用いて、将来の夢に対する様々な理由や思いを含めた「My dream スモールトーク」を教師が行うことで、将来の夢を伝える際の「理由や思い」の表現に着目させるようにした。

○　４人グループで互いのスピーチの表現をふりかえり、再度スピーチをする時間を設定することで、スモールトーク

Let's travel into a back!
（教師が過去に戻った設定で夢を語る）
I want to be an elementary school teacher. I like singing, running, and playing the piano. I can speak English. I like many subjects. What subject do you like? I like talking with children. It's fun. I want to enjoy teaching.

【教師によるスモールトークの例】

で気付いた表現や、これまでの学習で学んだ表現、仲間の発表の表現等を基に、よさを認め合ったり助言し合ったりし、互いの表現を高めることができるようにした。

【現れていた子どもの姿】

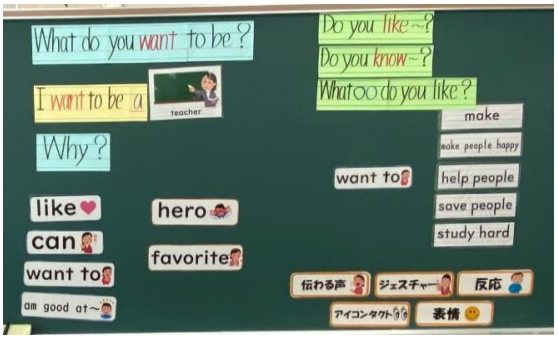
○　スモールトークの場面

・　将来の夢に対する様々な理由や思いを含めた My dream スモールトークを教師が行ったことで、「理由や思い」についての表現に気付き、言語活動の際にそれらの表現を生かして自分の思いや考えを伝え合おうとする姿が見られた（写真４）。

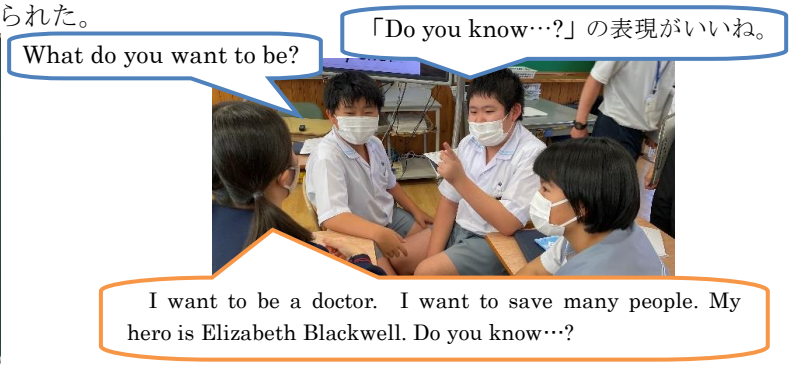
○　ペアやグループでやり取りや発表をする場面（言語活動）

・　スモールトークで使用した表現等を黒板に掲示し、チャートを活用して自分の将来の夢に対する理由や思いを考えさせたことで、伝えたい内容や表現を整理し、ペアやグループの仲間と表現を教え合いながら伝え合おうとする姿が見られた（写真５及びスピーチメモの記述）。

・　１回目のスピーチの後、互いの表現をふりかえり、再度スピーチをする時間を設定したことで、互いの表現のよさを認め合ったり助言し合ったりし、ジェスチャーを交えて伝え合おうとする姿や、仲間に伝わる簡単な英語で表現しようとする姿が見られた。



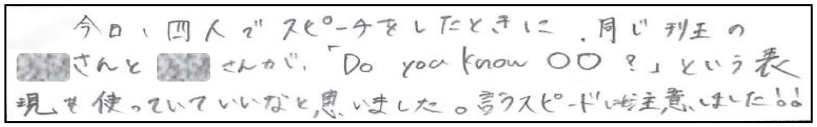
【写真４　板書】



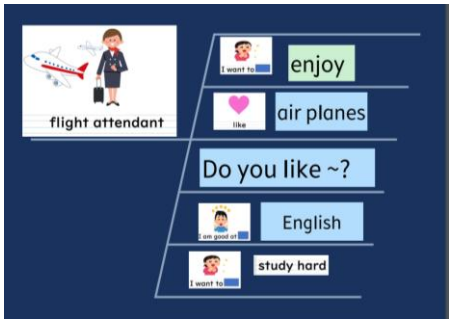
【写真５　やり取りの様子】

○　ふりかえりの場面

・　「伝える工夫」、「仲間のよいところ」、「できるようになったこと」、「がんばりたいこと」の４つの視点を与え、本時でめざす姿と自分や仲間の姿を照らし合わせながらふりかえらせたことで、「○○さんがジェスチャーを取り入れていて分かりやすかった。」、「問いかける表現を入れると相手の反応を確認しながらスピーチができた。」等といった、仲間の表現のよさに気付く記述や、相手意識をもってスピーチの表現を工夫した記述が見られた。


今日、四人でスピーチをしたときに、同じ列王の
[redacted]さんと[redacted]さんが、「Do you know ○○？」という表
現を使っていていいなと思いました。言うスピードに注意しました!!

【子どものふりかえりの記述】



【スピーチメモの記述】

【考察】

宇宙飛行士になりたいという夢をもつ子どもの発表のなかで、「footprint」という単語が出てきた。この単語のなかには、子どもの思いが込められており、仲間に伝わるようにジェスチャーを加えて工夫して伝えていた。このように、自分の思いを込めて伝える姿を大切にしていく必要がある。

今年度の研究のまとめ

1　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方

(1)　仲間と共に学びをつなぐ言語活動の在り方

○　自分の表現に対する仲間の反応を確認しながらやり取りをさせることで、相手により伝わる表現を工夫することができるようになり、相手に合わせて表現の仕方を工夫することができるようになってきた。

○　教師と子どもによるスモールトークのなかに、単元で必要となる表現を意図的に盛り込むことで、それらの表現を織り交ぜて自分の思いや考えを、仲間に分かりやすく伝えようとする姿が見られた。

●　外国語活動・外国語科学習では、ただ単語や文を発話するのではなく、自分の思いを込めて伝える姿を大切にしていく必要がある。

参考文献：第２言語ユーザのことばと心　　村端五郎・村端佳子　開拓社　2016
すらすら話せる英語プレハブ表現 317　　村端五郎　開拓社　2005
小学校外国語教育の指導と評価　　直山木綿子　文溪堂　2021